



東北電友会会報

95号
令和6年
8月発行



シリーズ
おらほの自慢

～ふるさとの
隠れた魅力を再発見～

— 目次 —

ごあいさつ	
NTT 東日本 宮城事業部 秋田支店長	1
支部長メッセージ 秋田支部長	2
NTT グループ東北だより	3
震災・災害コーナー	5
東北地方本部だより	10
各地区電友会だより	12
会員リレーコーナー	78
会友コーナー 文芸・随想	83
NTT 東日本からのお知らせ	91
編集後記	94



写真提供／電友会 秋田支部

ごあいさつ

東日本電信電話株式会社
宮城事業部 秋田支店長

澤 村 誉



東北電友会の皆様には、日頃よりNTT東日本グループの事業に対し、格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本会報が配付される頃には、既にNTTグループ各社の決算発表も終わっていることと思います。2023年度は、NTT東日本グループにとって大きな節目を迎える年度になったといっても過言ではないと思います。これまで、多くの先輩方に築いていただいた通信サービスの施設数が純減傾向に転換し、収益構造の転換が待ったなしの状況になったからです。

日本の社会全体で少子高齢化による人口減少は、一般家庭向けの通信市場の縮小も、意味しており同時に人手不足による各種産業の担い手不足など産業衰退も招きます。日本の各地域と比較しても、東北は、当該の課題が顕著に出始めているといっても過言ではありません。

このような中、秋田グループでは、このような課題を、ICTを活用することで克服し地域の発展を実現するため、「人づくり、街づくり」をスローガンとして、地域の皆様とともに、地域課題の解決に向けた様々な取り組みを進めております。

昨年度は、経済産業省のICT分野を中心に優れたアイデア・技術をもつ若手人材を発掘・育成するプロジェクトに採択され、一般から公募した社会人・大学生など18名の若手人材が単立っていきました。今年度も、同様のプロジェクトに応募し、無事に採択されましたので、引き続きICT分野の技術を活用し地域課題を解決する人材育成を進めていく所存です。同プロジェクトは、秋田支店の社員も育成プロセスに関わっており、社員もよい刺激を受け、学びの多い体験を創出し、社員の成長に繋げていければと思っております。

私自身も、母校である秋田大学の産学連携機構の客員教授を拝命し、今年度からスポットの大学生向けの講義、地域の高校生を対象としたデジタル技術・サマーカーンプと題した出前授業をさせていただく予定です。中長期的にも地域にICT活用を実践できる人材を増やしていきたいと考えています。

最近のお客様との会話でも、人材不足というキーワードが必ずでてきており、私どもの進めるICT化・DX化においては、ソリューションの提供だけでなくICT等を活用できる人材の供給、共同出資の会社の立ち上げなど、より一層の関与も必要ではないかとの考えに至るようになりました。

関連する身近なトピックとして、グループ会社であるNTTアグリテクノロジーズが自らが運営するイチゴ栽培ハウスを5月に立ち上げています。地域の皆様と協力しながら社員が農場を運営し収益化を目指す地域密着の事業創出事例となります。実は、まだ計画中の段階ではありますが、秋田支店でも、地域の皆さんと共同で会社を設立し、地域に貢献できるように産業創出を目指し、準備しており、皆さんに早くお披露目できるように頑張っていきたいと思っております。

このように、秋田グループでは、従来のICTソリューションの提案・導入支援のみならず、地域の特色を生かした産業の創出、基盤づくりを通じた持続可能な地域社会の構築に取り組んでおります。これらの取組から新たな収益源を確保し、地域とともに発展する事業モデルを東北から発信していければと思います。

最後になりますが、東北電友会会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

◎支部長メッセージ



秋田支部長

木村 辰雄

クマとの共生を目指して

令和6年2月の速報値では、昨年度のクマによる全国的被害は、統計のある2006年度以降最多の198件219人(内死者6人)でした。また、捕獲数も9,319頭で統計のある2008年以降の最多を記録しました。その中で秋田県の人的被害は62件70人と全国最多となっています。このうち秋田大学病院で対応した外傷は20件で、内訳は男性13件、女性7件で年代別では多い順に70代、80代、60代と続き、状況別では農作業6件、散歩5件、その他新聞配達の仕事など5件と続き、95%が偶発の遭遇でした。

月別では10月7件、9月4件と続き、被害場所は生活圏が75%でした。秋田県では特に夏頃から人里での出没が多発し目撃件数も過去最高の3,600件超に達し、約2,300頭が捕獲されました。秋田県では本年4月18日時点で昨年の4月上回る36件の目撃情報があり、5月4日には人的被害が発生し昨年度を上回る出没と被害が懸念されています。

では、なぜクマは身近なところにやっつけて人を襲うのか。一つは餌となるブナ、ミズナラ、コナラなどの木の実の不作の年があり生息地で餌が不足するため餌を求めて山を下りてくることです。それだけでなく、昔は田んぼや畑だったが人口減少や高齢化で手入れされなくなると草木が生い茂り、森と人の住む空間の境界がはつきりしなくなったことでクマの生息域が広がったと考えられています。秋田県はまさにその典型で、山間の集落だけでなく市街地においてもクマが出没する原因となっています。また、人が管理しきれなくなり、収穫せずに放置している栗や柿といった果実もクマを引き寄せる一因となっているようです。普通クマは人を避けて行動しているそうだが不意に人と遭遇して驚いたときや子グマを守るために人を襲う場合などがあるといわれています。ところが、最近是人を恐れず住宅街などで餌を探す「アーバンベア」も増えているそうです。クマによる負傷の特徴は、ほとんどが頭と顔の重症で後遺症が残ることもあります。

そこで、国は本年4月に被害対策強化のためクマを鳥獣保護法の「指定管理鳥獣」に指定しました。これはニホンジカ、イノシシに続いて3例目です。捕獲や個体数調査など対

策費を国が支援し、人の生活圏とクマの生息域を分ける対策を強化し、ただ単に数を減らすだけでなく人の生活圏に近づいてきたクマの生息域を山側に戻すことを基本とし、「人とクマとの共生」を目指しながら被害防止策も進めていくこととなっています。

秋田県は今春に鳥獣管理専門職員2名配置し、活動をスタートさせました。秋田県では住民が目撃しても警察に届けなかった事例が多く、実際には警察の把握数の2倍近くが目撃数がありました。増加していると思われる個体数の実態を把握しながら、地域住民と協力し草刈りや収穫しない栗や柿の木は整理するなど、クマが近づくの嫌がる環境づくりに取り組むこととしています。また、クマが出没しそうな場所にいる場合は予防として顔を覆えるヘルメットなどの着用を薦めること



被害に遭った栗の木

も検討されています。

私の畑の栗の木も1本だけは数年前からたまにクマの被害に遭っていたが、昨秋は数日間で栗の木5本全てと米ぬかや生ごみの混じった堆肥も被害に遭い、身近にクマの存在

を感じさせられました。今まで幸いにもクマとは遭遇はしていませんが、予防として畑での作業中はラジオの音を高くし、年3回の草刈りやクマ避けスプレーを傍に置き、常に複数人で作業することを心掛けています。

◆NTTグループ東北だより

◎仙台・青葉まつりへの参加

NTT東日本宮城グループは、「第40回仙台・青葉まつり」に参加しました。OB・OGの方々を含め総勢約160名が2日間に亘り、躍動感のあるすずめ踊りとお囃子、「囃子山鉦」の巡行を行いました。今後も東北各県の夏祭りや地域のイベントに参加するNTTグループ参加者への温かいご声援をお願いします。



宵まつり 提灯に灯りがともし荘厳な山鉦



定禅寺通りで演舞



本まつり
引き手さん達も頑張りました

◎NTT東日本みやぎの森プロジェクト

6月8日『NTT東日本みやぎの森』プロジェクト』として、クロマツの苗木植樹後



みやぎの森プロジェクト参加者
暑い中お疲れ様でした

の生長活動の下草刈り作業を今年も実施しました。今年は植樹から10年目となり、クロマツも参加者の身長を超える高さまで大きく成長していました。当日は、気温も高く大変暑い中の作業となりましたが、総勢約70名が参加し、電友会から21名もの方にご参加いただきました。電友会の皆様には現役以上にご活躍いただきました。大変ありがとうございました。

した。防災林として機能するまでにあと30年かかる取組みとなりますので、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。



大きく育ったクロマツにからむ雑草とり

◎スポーツクラブ後援会情報

日頃より、NTTグループ東北スポーツクラブ後援会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。また、「東北マックス（ベースボール・バドミントン）」後援会へ多くの方からご賛同いただき改めて感謝申し上げます。



福島市長杯 三浦選手



三瓶選手

ベースボールクラブは、6月に開催された「全日本クラブ野球選手権宮城県大会」において見事優勝し、宮城県代表として7月27日（29日の東北大会へ出場します。この大会で8月31日から栃木・群馬で開催される全国大会への代表権を勝ち取り、念願の優勝を目指してまいります。



野球教室
(プロ野球OB混合)



野球教室 (登米市内中学生)

バドミントンチームは、6月に仙台で行われた「全日本実業団バドミントン選手権大会」においてトーナメント2回戦敗退という悔しい結果でした。11月には、「S/JリーグⅡ」が滋賀県で開催されます。昨年、惜しくも最高峰である「S/Jリーグ」



必勝祈願
(秋保神社)



躍動する澁谷と 新人八島良弥



全日本実業団
バドミントン選手権大会



菲澤・日光



佐伯・高橋

復帰は叶いませんでしたが、今年こそは「S / JリーグII」で優勝し昇格できるように全力を尽くしてまいります。
引き続き、選手たちへの温かいご支援、熱いご声援をお願いいたします。



浅原・鈴木

今年の元旦に能登半島地方で大きな地震が発生し多くの尊い人命、財産が失われました。地震はいつ、どこで発生するかわかりません。また、突然発生しますし、お住まいの地域によつて条件は皆違います。地理的に条件の悪い場合は大変です（平地が少ない、海岸に集落がある、幹線道路が狭くて少ない等）。皆さんが今お住まいの場所で突然大きな地震がきたら自宅はつぶれないか、津波は来ないか、

火災は発生しないか、いろんなことを想定（イメージ）してください。考えるとき防災士等知識のある人の意見をアドバイス等とと思ってください。そうすることで自分に必要な備えが見えてきます。
自助は自分でできることを行う。共助は一人ではできないことを地域の皆さんで助け合う。公助はインフラ等の復旧を始め生活再建のあと押しと考えてください。
地震対策の具体的例として建物（自分が住んでいる）住宅の耐震化です。1981年（昭和56年）以前に建てられた家に住んでいる方は、少なくともつぶれない様な対応が必要です。建て替えができない場合、最低でも居間と寝室の天井が落下しないようにしてください（補強工事）。2階建ての場合は2階部分のみ取り壊すことも考えてみてください。多少、金がかかります。年金暮らしでそんな金はかけられないという方もいますが、自分の

◎防災（減災）を考える【地震への対応】Ⅲ
電友あさか会 水野 榮
災害が発生した場合の防災（減災）対策で一番大切なことは「自分の命は自分で守る。そして大切な人の命も守る」と言うことです。これには普段からの備え（準備）が必要であると言うことを改めて再確認してください。

自助は自分でできることを行う。共助は一人ではできないことを地域の皆さんで助け合う。公助はインフラ等の復旧を始め生活再建のあと押しと考えてください。
地震対策の具体的例として建物（自分が住んでいる）住宅の耐震化です。1981年（昭和56年）以前に建てられた家に住んでいる方は、少なくともつぶれない様な対応が必要です。建て替えができない場合、最低でも居間と寝室の天井が落下しないようにしてください（補強工事）。2階建ての場合は2階部分のみ取り壊すことも考えてみてください。多少、金がかかります。年金暮らしでそんな金はかけられないという方もいますが、自分の



命と比べてください。生きていれば年金は入ります。亡くなったら預貯金も使えません。考え実行するのは元気な今しか出来ません。

自分から行動しなければ何も変わりません。決めるのは『あなた』自身です。高齢になつたり身体的なことと考えるのが難しくなつた方はお住いの役所の担当部門に相談してください。必ず良いと思われるアドバイスが得られると思います。

津波や火災はいち早く安全な場所に逃げてください。自然災害で命をなくすことだけではないでください。できる限りの備えをしたらあとは悩んでも仕方ありません。限りある



段ボールで簡易トイレを作ります

人生、自分が楽しいと思うことをやってください。楽しいことが出来るのは元気で生きている時だけです。

何かご質問等があれば対応いたします。アドバイス等も出来ますので私の電話番号にご連絡ください。

防災士 水野 さかえ

090-1372-4141

◎福島第一原発構内見学紀行



福島地区電友会 高橋 敬一

1月31日、東日本大震災時の津波により被災した、東京電力福島第一原子力発電所構内の見学に行ってきました。東京電力から事前に調査票が送付され、放射線防護装備のため、身長・足のサイズ等の報告が求められました。本人確認のための運転免許証等の持参、カメラ・スマートフォン等の私物は構内に持ち込めない旨の注意書がありました。構内への立ち入りは、相当厳しく制限され防護着用等を覚悟しました。

富岡町にある、東京電力廃炉資料館に到着後、資料館内会議室に案内され、本人確認証

の提出・原発構内の概要説明・シアター上映による震災当時の津波襲来の模様、原子炉がメルトダウンに至る緊迫した、当時の監視制御室の様子が上映され、改めて震災時テレビで見ていた光景を思い起こしました。



シアター上映を見る参加者

資料館内の原子炉内燃料制御棒の現物などの展示物を見た後、全ての私物を資料館内に置いて、東京電力のバスで大熊町・双葉町に位置する第一原発に向け出発しました。

原発到着、まず構内入退域管理棟に移動。管理棟には入場ゲートがあり、警備員が事前に提出した免許証顔写真と本人の確認、空港設置同様の金属探知機を通りゲートを通過し

ました。通過後防護服着用かと思つたら、現在は原発構内の空間線量は人体に影響しない値まで下がっている、とのことで不要となりましたが、東京電力で準備したベスト・立入許可証・線量測定計を渡されこれらを着用。その後、構内専用バスに乗り込み案内が始まりました。

バス内には、通過地点の空間線量の値が常に表示されており、窓は開けないこと、の注意がありました。途中で2カ所バスから降り原発建屋などが展望出来る個所から、廃炉の状況等を見学することになっています。構内では連日約4千名の作業員が働いており、構内で使用する車両については「燃料・洗車」等全て賄い、構外には持ち出せないようにしているとの説明でした。

出発し車窓から目に入ってきたのは、構内で発生する「汚染水」を貯める、約



ALPS 処理水建屋

1000基の貯蔵タンクの群れです。次に通過したのは汚染水を処理する「ALPS処理」建屋です。中に入ることは出来ず車窓からの見学でしたが、ここでは、汚染水に含まれる

62種類の放射性物質を基準濃度未満まで除去しているとのことでした。

バスは事故を起こした「1号機」4号機」建屋が見渡せる地点に到着。バスから降り「見学デッキ」に移動しました。

この場所は、水素爆発を起こした建屋まで約70mの距離にあり、爆発による建屋の残骸がまだ当時のままに残っている状態でした。見学デッキに設置された空間線量計の値は、「57・7 $\mu\text{s/h}$ 」を示していました。残骸の撤去作業は、作業することにより放射性物質が散らばるため、建屋を全面的カバーで覆ってから行うとの説明でした。

次に、構内の各建屋・設備について車窓からの説明を受けながら向かった先は、汚染水をALPS処理後、「処理水」を海洋放出する設備



1号機建屋残骸の模様



処理水放出先の太平洋

真上にある展望デッキです。放出するため約1000mのトンネルを掘削した、シールドマシンの刃先が展示されていました。放出口は海底のため、肉眼では確認できないので眼下の太平洋を眺めあのあたりかな？と想定するだけでした。

約1時間の構内見学後、入退域管理棟に戻りバスから降りた後、ALPS処理水の安全性の説明、サンプル現物を手に取り確認。

その後、全身の放射能スクリーニング装置を通過し「異常なし」。入構時身に着けたベスト・線量計などの返却、私が付けていた線量計の値は「0・1 $\mu\text{s/h}$ 」で人体には影響の無い値でした。



ALPS 処理水サンプル

- 今回の視察で感じたことは、
1. 未だに原子炉建屋の残骸が手付かずの状態が残っていること。
 2. 原子炉内の制御棒が溶け落ちた「燃料デブリ」の取り出しが、度重なるロボットトラブルでまだ始まってないこと。
 3. ALPS処理水の放出が始まったとは言え、汚染水は相も変わらず1日当り90m

も出ていること。

4. 4月には処理水放出中に、構内での掘削作業中、関連電力ケーブルの損傷により停電が発生、放出がストップするなどのトラブルが頻繁に発生していること。
5. 除染土の福島県外搬出先がまだ決まっていないこと。

これらを考えた時、今後40年で本当に廃炉を含めた諸問題が終わるのか疑問が残ります。福島原発の廃炉なくして「福島の震災復興はありません」。国と東京電力の責任で一刻も早い復興を願うばかりです。

「用語の解説」

- ・燃料デブリ
ウラン燃料が過熱し原子炉内構造物と共に溶けて冷えて固まったもの
- ・汚染水
地下水や雨水が原子炉建屋内に流入し核物質を含んだ水（燃料デブリ冷却水を含む）
- ・ALPS（多核種除去装置）
トリチウムを除く62核種の大部分を除去する装置
- ・処理水
ALPSで除去不可能なトリチウムを海水で希釈し、国の安全基準値の1/40の「1500ベクレル」未満にした水

※掲載写真は、私物カメラ等持ち込み不可のため、全て東京電力様提供のものです。

◎R5年7月秋田での

大雨浸水被害を振り返って



秋田支部 畠山 昇

昨年大雨浸水災害は私にとって長い人生で初の体験でした。被害と復興等の災害状況を書かせて頂きます。

令和5年7月14日から降り続けた大雨は15日の昼頃からの秋田市太平洋川の上流で洪水が発生し、下流にある自宅には、夕方6時頃から短時間に泥水の濁流が家中に流れ込み、あつという間に床上を埋め尽くし2階への階段中段までの浸水状態となりました。

トイレ・風呂場・洗面所等も泥水で使用できなくなり、避難の為に消防署へ救助依頼をしましたが、順番待ちで、朝方に救助ボートで避難場所まで運んでもらいました。自宅前に駐車中の自家用車は屋根近くまで泥水が入った状態で、廃車になりました。

翌日、避難所から自宅に戻りました。自宅に帰り一番驚いたのは、冷蔵庫が逆さまにな

っていて、大人3人の力で元に戻しましたが使用不能でした。また、床上50cm以上の浸水により、テレビを始め電化用品・家具類全て使用不能となりました。後日、ボランティアの方へ不要家財の後片付けをお願いし処分。また床下の泥の撤去や消毒薬散布をしてもらいました。感謝感謝の気持ちで一杯でした。本当に有難うございました。

11月初旬に、やっとリフォーム業者が見つかり、12月末には工事が終わりました。新年は新台所での料理作り、居間は床を張り替えて新しい気持ちで正月を迎えることができましたが、元旦の夕方能登半島での地震発生、2日は羽田で飛行機火災発生、3日は北九州市での食堂街の火災と令和6年は波乱の年明けでした。

今回の水害の経験から、飲み水の確保が大事と痛感しました。（常に飲み水保存が大事）
今後は、災害被害の経験を活かして、残りの人生を謳歌して行きたいと思っています。
最後に、皆様からの励まし等の連絡を頂き、また、電友会本部様よりの見舞い金をわざわざ届けて頂きまして、本当に有難うございました。

◎戦争当時の記憶

東北地方本部

電友会五ッ橋クラブには会員が迎えるもの時（死亡時）の弔辞奉読希望者用としてご自身の職歴等を記入していただく「私のあしあと」というものがあります。今は故人となられた方が書かれたものや聞き取りしたものも保存しております。先の戦争体験を書かれた方もいらっしゃるので、2025年夏で

戦後80年の節目となる来年夏の97号に戦争を体験した先輩たちの原稿を掲載しようと考えておりました。しかし、年々そういつた体験を語り合える方が少なくなり、大変な時代を生き延びてきた思いを語り継ぐためにも、現役時代に戦争を体験された亡き先輩3名の原稿を先輩方の思いに敬意を表し今号に掲載します。私たちは、かつて日本が戦争をしています。私たちは、かつて日本が戦争をしていたことを思い、悲惨な時代を繰り返さない為にも、平和な今を生きていることの有難さを忘れないようにいたします。

・O・R様(昭和3年生まれ 男性R5没)

仙台局試験係(通称60番)勤務当時の震災復興工事と故障対応の多忙さ、時代の変遷に伴う多様な自動交換機の導入の知識・技術習

得に苦勞した。採用になった昭和20年7月に仙台空襲があった。自分は塩釜から通っていたので無事だった。一緒に採用になった友人は国分町に住んでいた。空襲の翌日、仙石線で高砂まで行けたので、そこから歩いて仙台電話局へ行った。焼け跡から同期の友人の財布が見つかった。焼けていたが中身を見てすぐに彼の財布だと分かった。それ以外は骨も見つからず大変な有り様だった。自分はその後復興で多忙になった。まだ10代半ばのことである。

・W・T様(昭和3年生まれ 男性R2没)

昭和20年8月15日台原電話中継所で宿直勤務。深夜屋上から仙台市内を眺め敗戦の心の整理をした。9月15日米軍が仙台に進駐。その夜宿直だった私は通信ケーブルの施設工事を夜間に行っていたが、銃を向けられ、恐怖の中での工事だった。翌朝司令官がテレタイプ設置と挨拶に来所。司令官のジェントルマンとしての行動に、敬意の心と平和を願う心が芽生えた。17歳だった。電電公社に勤められたこと、人生の元気な時期に仕事が出来たことも多くの方々の助けがあればこそと感謝しています。

・T・H様(大正14年生まれ 女性R5没)

昭和16年12月8日の開戦で、全ての警報伝

達は電話で行われた。空襲中でも交換台を離れなかった。終戦間もない8月20日、宿明けの交換台で樺太の交換手たちの自決を聞いた。昭和35年チリ地震津波で局構内も浸水したところ等、戦時中も含め思い出を語る人はもういない。
(T・H様については今号の随想88ページにも「思い出のランプ」として掲載しております)



東北地方本部だより

東北地方本部事務局

◎電友会本部理事会

6年3月5日、オンライン会議で実施。能登半島地震被災者への見舞金贈呈について承認するとともに「令和6年度事業計画」等の意見交換を行い、これをベースに地方本部の事業計画を策定することで意識を合わせました。

◎第2回支部長・事務局長会議

6年3月12日、NTT五橋ビルで開催。6年度事業計画の意見交換、定期報告の一部変更、サークル助成金申請における注意点、データベースのセキュリティ確保等について審議・報告が行われました。



支部長・事務局長会議

◎地方理事会

6年4月22日、NTT五橋ビルで開催。令和6年度地方評議員会の議案書審議、電友会ボランティア活動賞、功労賞の推薦等を諮り各理事（支部長）の賛同により承認されました。



地方理事会

◎東北地方本部評議員会

令和6年5月20日、ホテルメトロポリタン仙台において開催。ご来賓にはNTT東日本執行役員 宮城事業部長 須藤博史様、企画総務部長 高橋淳様をお迎えし、また電友会本



本部高部会長挨拶



宮城事業部長挨拶



本部長表彰



懇親会
(ホテルメトロポリタン仙台)

部からは会長の高部豊彦様にご出席をいただきました。会議では、5年度事業報告並びに6年度事業計画、役員改選等について審議し全て原案どおり可決されました。その後、電友会の育成発展に特に功績のあった4名の方々に地方本部長表彰が行われました。表彰された方は藤枝美津子様(五ッ橋クラブ) 岡田博様(相馬クラブ) 澤田俊夫様(岩手支部) 堀川賢一様(青森地区)。



高石本部長挨拶



みやぎの森 下草刈り作業参加の皆さん
暑い中お疲れ様でした

各県のNTT支店長及び賛助会員企業(NTTグループ各社)の幹部の皆様をお迎えし、東北各地区の会長等と交流を深め、楽しい懇親会となりました。

◎ボランティア活動
令和6年6月8日「NTT東日本みやぎの森」プロジェクトへ東松島市海岸防災林再生活動へについて、昨年に引き続き同市矢本地区、浜市地区の植樹後の成長管理(葛の根と

ツルの刈り取り)活動に参加しました。五ッ橋クラブ(12名) 石巻電友会(9名)の会員計21名が現役とともに、大変暑い中で奮闘しました。

「気仙沼大島海岸林再生活動」については、今年度の実施は決まっていますが、「チームNTT」として積極的に取り組んでいくこととします。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

◎物故会員の叙位・叙勲

次の方々は、生前のご功績により、それぞれのご逝去の日をもって叙位・叙勲の栄誉に浴されました。

- | | | |
|----------|-------|---------|
| (叙位・叙勲) | (支部名) | (ご氏名) |
| 瑞宝单光章 | 山形 | 清野 貞義 様 |
| 従六位瑞宝双光章 | 宮城 | 新妻禮次郎 様 |
| 瑞宝单光章 | 秋田 | 高橋 俊三 様 |
- (令和5年12月～令和6年6月まで)

